

令和7年度第2回新生公立鳥取環境大学運営協議会次第

日 時 令和8年2月4日(水)  
午後2時30分～午後3時  
場 所 県庁第4応接室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

議案第1号 令和8年度公立鳥取環境大学運営費交付金等について

議案第2号 令和8年度新生公立鳥取環境大学運営協議会事業計画及び予算について

4 報告事項

報告第1号 公立鳥取環境大学の魅力向上につながる教育改革について

報告第2号 公立鳥取環境大学の近況について

5 閉 会

令和7年度第2回新生公立鳥取環境大学運営協議会 出席者名簿

区 分	役 職 等	氏 名	備 考
新生公立鳥取環境大学運営協議会	会長	平井 伸治	鳥取県知事
	副会長	深澤 義彦	鳥取市長
	委 員	山根 茂幸	鳥取県総務部長
	委 員	河口 正博	鳥取市企画推進部長
公立大学法人公立鳥取環境大学	理事長・学長	小林 朋道	
	副理事長	寺口 嘉昭	
	理事兼副学長	中山 実郎	
	理事兼事務局長	田中 洋介	
新生公立鳥取環境大学運営協議会 事務局	事務局長	池本 丞二	鳥取県総務部 教育学術課長
	事務局員	上田 貴洋	鳥取市企画推進部 政策企画課長
		佐々木 真人	鳥取県総務部 教育学術課参事
		金森 のぞみ	鳥取市企画推進部 政策企画課主任

議案第1号

令和8年度公立鳥取環境大学運営費交付金等について

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第42条第1項の規定により交付する公立鳥取環境大学運営費交付金等について、下記のとおり新生公立鳥取環境大学運営協議会の承認を求める。

記

交付金等合計額 1,314,169 千円（前年度予算額 1,251,222 千円）

<内訳>

運営費交付金	963,894 千円	（前年度予算額	991,474 千円）
大規模修繕費補助金	136,692 千円	（前年度予算額	84,621 千円）
授業料等減免費交付金	213,583 千円	（前年度予算額	175,127 千円）
（修学支援新制度分）			

鳥取県及び鳥取市の負担額は1/2ずつとする。

（資料）

資料1 令和8年度公立鳥取環境大学運営費交付金等について

## 令和8年度公立鳥取環境大学運営費交付金等について

## R8 運営費交付金等の概略

●交付金等合計額 1,314,169千円（前年度 1,251,222千円 対前年度 +62,947千円）

<内訳>

- ・運営費交付金 963,894千円（前年度 991,474千円 対前年度 △27,580千円）  
通常分 910,335千円、特別分 53,559千円  
主なもの：（特別分）講義室音響映像機器更新
- ・大規模修繕費補助金 136,692千円（前年度 84,621千円 対前年度 +52,071千円）  
主なもの：空調設備工事、太陽光発電設備設置工事、学生センターZEB化、エレベーター改修工事  
※学生センターZEB化の工期はR8～R9年度（R8:61,730千円、R9:92,595千円）
- ・授業料等減免費交付金 213,583千円（前年度 175,127千円 対前年度 +38,456千円）  
（修学支援新制度分） ※対象者（多子世帯等）の増に伴う増額（R7実績見込を考慮）

●負担額：鳥取県及び鳥取市の負担額は、1/2ずつとする。

## 1 事業の目的・概要

公立大学法人公立鳥取環境大学の運営に必要な経費の一部について、所要額を交付する。

## 2 運営費交付金算定の考え方（公立化し、交付金を創設したH24年度から考え方の変更なし）

- (1) 大学の適切な運営に必要な標準的な支出額と標準的な収入額との差を、用途を特定しない運営費交付金（通常分）として交付する。運営費交付金（通常分）は特段の事情のない限り、毎年度、原則、同額とする。
- (2) 各年度に臨時的に必要な経費（退職金・実験用機器整備・システム更新等）は、運営費交付金（特別分）として交付する。
- (3) 緊急かつ大規模な修繕工事等の経費（1件5,000千円以上）は、大規模修繕費補助金として交付する。
- (4) 大規模修繕工事については、1件ごとに精査する。
- (5) ①運営費交付金と②大規模修繕費補助金の合計額は、地方交付税算入試算額以内とする。

【参考】令和8年度地方交付税算入試算額 1,100,586千円（比較額（①+②）：1,100,586千円）

※学生数は入学定員を充足、交付税単価は令和7年度の推移を参考に試算

- (6) ③授業料等減免費交付金（修学支援新制度分）は、大学が修学支援新制度により入学金・授業料を免除・減免した実績額を交付する。（※修学支援新制度に係る地方負担分は交付税措置）

## 3 所要額 1,314,169千円（前年度 1,251,222千円）

（単位：千円）

項目	R8 予算額	R7 予算額	差額	内容
① 運営費交付金	963,894	991,474	△27,580	
通常分	910,335	910,335	0	標準支出見込額 1,694,463 －標準収入見込額 784,128
特別分（臨時的経費）	53,559	57,097	△3,538	講義室（3室）音響映像機器更新 43,559、実験用機器 10,000
特別分（退職金）	0	24,042	△24,042	
② 大規模修繕費補助金	136,692	84,621	52,071	大学脱炭素化に係る施設整備（空調設備工事、太陽光発電設備設置工事、学生センターZEB化工事）、エレベーター改修工事 ※学生センターZEB化の工期はR8～R9年度（R8:61,730、R9:92,595）R9分は債務負担行為
小計（①+②）	1,100,586	1,076,095	24,491	
③ 授業料等減免費交付金（修学支援新制度分）	213,583	175,127	38,456	対象者（多子世帯等）の増に伴う増額（R7実績見込を考慮）
合計（①+②+③）	1,314,169	1,251,222	62,947	

議案第2号

令和8年度新生公立鳥取環境大学運営協議会事業計画及び予算について

令和8年度新生公立鳥取環境大学運営協議会事業計画及び予算について、新生公立鳥取環境大学運営協議会規約第23条第2項の規定により、新生公立鳥取環境大学運営協議会の承認を求める。

(資料)

資料2-1 令和8年度新生公立鳥取環境大学運営協議会事業計画(案)

資料2-2 令和8年度新生公立鳥取環境大学運営協議会歳入歳出予算書(案)

## 令和 8 年度新生公立鳥取環境大学運営協議会事業計画（案）

公立大学法人公立鳥取環境大学の設立団体に係る事務を共同で管理・執行し、また、これらの事務の管理・執行について相互に連絡調整を図るため、以下の事業を行う。

事業名	実施時期	事業概要
第 1 回評価委員会	令和 8 年 5 月	・ 公立鳥取環境大学の現状調査 (現地視察、学生・教員との意見交換等)
第 2 回評価委員会	令和 8 年 7 月	・ 大学の令和 7 年度業務実績に関する大学幹部との意見交換 (大学からのヒアリング及び助言)
第 1 回運営協議会	令和 8 年 8 月	・ 財務諸表及び剰余金の使途の承認 等
第 2 回運営協議会	令和 9 年 1 月	・ 令和 9 年度運営協議会予算、公立鳥取環境大学運営費交付金予算の承認 等

※地方独立行政法人法改正に伴い、第 3 期中期目標（期間：R6～R11）の評価から年度評価が廃止になった。令和 8 年度においては、評価委員会委員の大学への理解を深め、かつ大学の業務改善に役立てるため、評価委員会による大学の現状調査及び大学幹部との意見交換を行う。

## 令和 8 年度新生公立鳥取環境大学運営協議会歳入歳出予算書 (案)

## 【歳入】

(単位：円)

科 目	本年度予算	前年度予算	差額	内 容
1 団体負担金	668,000	668,000	0	鳥取県 334,000 鳥取市 334,000
2 雑収入	0	0	0	
3 繰越金	0	0	0	
計	668,000	668,000	0	

## 【歳出】

(単位：円)

科 目	本年度予算	前年度予算	差額	内 容
1 事務費	49,160	49,160	0	事務用品等 14,160 全国公立大学設置団体 協議会会費 20,000 振込手数料等 15,000
2 運営協議会運営費	20,000	20,000	0	資料送付代他 20,000
3 評価委員会運営費	598,840	598,840	0	委員報償費 218,000 委員旅費 306,960 会議録経費 70,000 茶菓代 3,880
4 予備費	0	0	0	
5 雑費	0	0	0	
計	668,000	668,000	0	

## 大学の魅力向上につながる教育改革について

令和8年1月30日  
公立鳥取環境大学

近い将来の大学志願者数の減少局面を念頭に、受験生に選ばれ、学生一人ひとりが成長を実感できる大学であり続けることを目的として、段階的な教育改革に取り組んでいる。

**1 第一段階 学生の成長を主眼とした教育方法の変更** 令和8年4月より実施予定

令和8年4月からの実施にむけて最終の準備中。

- ・社会に求められる能力を「知識」「課題解決力」「コミュニケーション力」「豊かな人間性」の4つの観点を軸とした12の力として整理し、その能力を学生が身に付ける成長過程を可視化するシステムを導入
- ・アクティブラーニングの推進、シラバスの見直し、成績評価ガイドラインの策定、授業時間の変更（90分授業を100分授業に変更）により教育効果を高める。

**2 第二段階 人間形成教育のカリキュラム変更** 令和9年4月より実施予定

学内で検討チームを立ち上げ詳細な制度設計を実施中。

- ・社会のニーズに沿ったグリーン人材、デジタル人材、地域人材育成を目指した科目を整理・新設
- ・AI 数理データサイエンス分野の全学必須化、全学共通の地域実践型学修（「長期地域実践活動」（仮称））の新設
- ・教育の質を高め、学生が主体的に学修などを進められるよう、科目の体系化と絞り込みを実施

**3 第三段階 より魅力的な教育内容等に関する検討**

大学の強みを活かした教育内容の見直しについて検討中。

**(1) 教育改革検討会議**

- ・理事および副学長を構成員として、教育内容の見直しおよび学部学科体制の方向性、構想の策定
- ・この検討会議の下にワーキングチームを組織し具体的な見直し案を検討中

**(2) 「公立鳥取環境大学魅力向上に向けた外部有識者会議」を開催し、有識者からの意見を聞き取り**

- ・第1回 7月10日 大学の現状・課題、大学を取り巻く状況について
- ・第2回 8月8日 県内入学者の確保および県内就職の促進について
- ・第3回 8月27日 より魅力的な教育内容への見直しについて
- ・第4回 11月27日 効果的な広報について

**(3) 県内産業界への個別訪問**

県内の商工団体・金融機関等を訪問し、大学の近況および教育内容の見直しについて説明、意見交換を実施中。

団体・企業からの主な要望・意見

- ・「地域」を意識できる人材、IT・AIの基礎的知識を持った人材を輩出してほしい。
- ・課題を的確に設定し、解決しようとする能力を持った学生を地域に輩出してほしい。
- ・県内の企業と学生が接触できる場を大学内で持ってほしい。

# 近況報告(トピックス)

## 1 入学試験(特別入試)実施状況

( )内は昨年度実績、単位：人

区分	両学部合計		環境学部		経営学部	
	全国	県内	全国	県内	全国	県内
<b>総合型選抜</b>	募集 40 (40)		募集 20 (20)		募集 20 (20)	
志願者数	160 (155)	49 (48)	82 (77)	23 (16)	78 (78)	26 (32)
合格者数	45 (50)	12 (11)	22 (25)	4 (3)	23 (25)	8 (8)
<b>学校推薦Ⅰ型</b>	募集 75 (75)		募集 30 (30)		募集 45 (45)	
志願者数	151 (142)	36 (36)	67 (61)	5 (4)	84 (81)	31 (32)
合格者数	84 (80)	18 (23)	33 (32)	3 (3)	51 (48)	15 (20)
<b>学校推薦Ⅲ型</b>	県内のみ 募集 15 (15)		※学校推薦Ⅱ型は県内者に限定した共通テストを課す入試であり2月1日に実施			
志願者数	19 (16)					
合格者数	16 (15)					

## 2 就職の内定状況

2026/1/15 現在、単位：人、%

区分	全学			環境学部			経営学部		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
① 卒業見込者数	187	127	314	90	68	158	97	59	156
② 就職希望者数	167	113	280	74	57	131	93	56	149
③ 内定者数	130	98	228	59	49	108	71	49	120
④ うち県内企業内定者数	24	26	50	11	11	22	13	15	28
⑤ 就職(内定)率 ③/②	77.8	86.7	81.4	79.7	86.0	82.4	76.3	87.5	80.5
⑥ 内定者に占める県内企業内定率 ④/③	18.5	26.5	21.9	18.6	22.4	20.4	18.3	30.6	23.3
参考：令和6年度県内企業内定率	15.9	26.0	20.0	12.7	20.0	15.7	18.9	32.0	24.2

## 3 主な開催イベント等

### とっとりSDGsパートナー交流会 in 公立鳥取環境大学の開催(1/14(水))

鳥取県主催の「とっとりSDGsパートナー交流会」が本学で開催され、県内でSDGsに積極的に取り組む企業・団体・個人の方々(とっとりSDGsパートナー)にお越しいただき、各団体の発表の他、本学学生の実践活動を題材にした意見交換も行われました。



### 鳥取県版COP「COP TOTTORI 2025」を本学で開催(12/20(土))

本学と鳥取県との共催で、鳥取県版COP会議「COP TOTTORI 2025」を本学において開催しました。脱炭素に関する講演や意見交換、実践活動の発表等が行われました。



### サステナビリティ研究所成果報告会、シンポジウムの開催(12/3(水))

令和7年度SDGs特別シンポジウム「脱炭素社会の実現に向けて～課題共有から共創へ～」を開催しました。第1部は令和6年度サステナビリティ研究所研究成果報告として、4名の研究員が成果報告を行いました。

本学では鳥取市と共に、2050年度の温室効果ガス排出ゼロを目指して環境省の「脱炭素先行地域プロジェクト」に取り組んでいます。第2部では脱炭素先行地域プロジェクトに関わりがある方々の報告の後、パネルディスカッションを催し、行政・地域・民間関係者の垣根を越え、現場の課題と展望を共有するとともに、関係者連携のあり方について議論が行われました。



### 経営学部4年生が公認会計士試験に合格(12/12(金))

経営学部4年 今岡 飛翔 (いまおか つばさ) さんが令和7年公認会計士試験に合格しました。在学生の合格は令和4年、令和6年に続き、3人目となります。

今岡さんは、経営学部 柳 特任教授の簿記2級勉強会に参加したことをきっかけに、公認会計士を目指し、同じ目標を持つ仲間とともに毎日8時間以上の勉強を続け合格しました。



### 環境学部4年生が学会で優秀ポスター賞を受賞(9/24(水)～26(金))

本学環境学部4年外園 真都 (ほかぞの まなど) さんが、土木学会地球環境委員会が主催する第33回地球環境シンポジウムで「鶏糞を基質としたメタン発酵へのホテイアオイ添加の影響」について発表し優秀ポスター賞を受賞しました。外園さんは「学会に参加して多くの研究者と活発な議論ができ、知見を深めることができ刺激になりました」と語っていました。また、指導教員の戸苅 准教授は「海外の大学との共同研究も見据えている」と今後の計画を語っていました。



### フィンランド(トゥルク市)との学生相互派遣事業(9月、12/1(月), 3(水))

鳥取県が実施する「令和7年度自治体ネットワークを活用した人材育成事業に係る鳥取県とフィンランドとの学生相互派遣事業」と連携し、学生2名と教職員2名を脱炭素先進国であるフィンランドに9月に8日間派遣し、12月にトゥルク市の職員及び学生が来学し、本学学生らと意見交換やフィールドワークを実施しました。



### 「鳥取市地方創生ストリートミーティング」に参加(10/22(水))

「鳥取市地方創生ストリートミーティング(働く女性・大学生編)」に本学の学生2名が参加し、若者ならではの視点から率直な意見を述べるなど、深澤鳥取市長をはじめ、市内の大学生や市内で働く女性と意見交換を行いました。



別 冊

# 近況報告



# 1 公立鳥取環境大学の在籍者数

令和7年12月1日現在

〔学部〕

休学者は内数 単位:人

学部名	入学定員	令和7年度生 (2025)			令和6年度生 (2024)			令和5年度生 (2023)			令和4年度生 (2022)			令和3年度 以前		合計	
		入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	休学	在籍	休学	在籍
環境学部	150	163		163	159	(3)	157	161	(1)	158	158	(5)	154	(2)	21	(11)	653
経営学部	150	165		165	166	(1)	160	159	(3)	155	168	(1)	155	(0)	20	(5)	655
総計	300	328		328	325	(4)	317	320	(4)	313	326	(6)	309	(2)	41	(16)	1,308

うち留学生(私費外国人留学生入試・県費留学生)

環境学部	若干	5		5	5	0	5	2	0	2	4	0	4	0	4	0	20
経営学部	若干	4		4	4	0	3	2	0	2	2	0	2	0	0	0	11
総計		9		9	9	0	8	4	0	4	6	0	6	0	4	0	31

\*留学生の内訳(在籍者)

中国5  
ミャンマー1  
ベトナム1  
韓国1  
モンゴル1

中国7  
ミャンマー1

中国2  
台湾1  
ベトナム1

中国3  
台湾2  
マレーシア1

中国2  
韓国1  
ネパール1

★確認中

〔大学院〕

休学者は内数 単位:人

領域名	入学定員	令和7年度生 (2025)			令和6年度生 (2024)			令和5年度 以前		合計	
		入学	休学	在籍	入学	休学	在籍	休学	在籍	休学	在籍
環境学専攻	10	5		5	3	0	3	0	0	0	8
経営学専攻	5	3		3	0	0	0	0	0	0	3
総計	15	8		8	3	0	3	0	0	0	11

うち留学生

中国4  
(環境学専攻1  
経営学専攻3)

中国1  
(環境学専攻)

## 2 令和8年度入試の実施状況について

令和8年1月13日現在  
( )内は昨年度実績

### 総合型選抜実施状況

学部	環境学部		経営学部		合計	
募集人員	20(20)		20(20)		40 (40)	
志願者数	<b>82 (77)</b>	うち県内 23 (16)	<b>78 (78)</b>	うち県内 26 (32)	<b>160 (155)</b>	うち県内 49 (48)
合格者数	<b>22 (25)</b>	うち県内 4 (3)	<b>23 (25)</b>	うち県内 8 (8)	<b>45 (50)</b>	うち県内 12 (11)

### 学校推薦型選抜Ⅰ型出願状況

学部	環境学部		経営学部		合計	
募集人員	30(30)		45(45)		75(75)	
志願者数	<b>67 (61)</b>	うち県内 5 (4)	<b>84 (81)</b>	うち県内 31 (32)	<b>151 (142)</b>	うち県内 36 (36)
合格者数	<b>33 (32)</b>	うち県内 3 (3)	<b>51 (48)</b>	うち県内 15 (20)	<b>84 (80)</b>	うち県内 18 (23)

### 学校推薦型選抜Ⅲ型出願状況

学部	環境学部
募集人員	15 (15)
志願者数	<b>19 (16)</b>
合格者数	<b>16 (15)</b>

(注) 学校推薦型選抜Ⅲ型は県内出身者のみ出願可能

※以下、参考

### (3年次編入学)

学部	環境学部	経営学部	合計
募集人員	若干名	若干名	若干名
志願者数	<b>2 (2)</b>	<b>(8)</b>	<b>2 (10)</b>
合格者数	<b>2 (1)</b>	<b>(2)</b>	<b>2 (3)</b>

(注) 経営学部は2月実施

### (大学院 1期)

専攻	環境学	経営学	合計
募集人員	10	5	15
志願者数	<b>13 (5)</b>	<b>2 (1)</b>	<b>15 (6)</b>
合格者数	<b>12 (5)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>13 (6)</b>

(注) 2期は2月実施

### (今後の予定)

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
学校推薦型選抜Ⅱ型	20	1月19日 ~ 1月27日	2月1日	2月9日
一般選抜 (前期日程)	135	1月26日 ~ 2月4日	2月25日	3月5日
一般選抜 (後期日程)	15		3月13日	3月21日

### 3 その他の近況

#### I 研究関係

##### 研究・交流

##### 1. 公開講座等

\* … 実施済み

##### (1) 地域・教養に関連した一般向け講座

	開催日/会場		タイトル	講師
*	6/7(土)	西部	宇宙からの地球観測	環境学部 准教授 佐川 龍之
*	6月下旬	動画配信		
*	8/30(土)	西部	数学の「解き方」の歴史	人間形成教育センター 教授 吉田 聡
*	9月中旬	動画配信		
中止	9/6(土)	中部	近年の外国人労働者の動向と外国人介護職員の就業	経営学部 准教授 佐藤 彩子
*	9月下旬	動画配信		
*	10/4(土)	東部	SDGs とは何であり、何ではないのか ～SDGs が取り残したのものたちから～	経営学部 准教授 高井 亨
*	10月中旬	動画配信		
中止	11/1(土)	東部	学校づくりは地域づくり／地域づくりは学校づくり	環境学部 准教授 川口 有美子
中止	11月中旬	動画配信		
*	11/29(土)	西部	野生動物の社会を知ろう ～ニホンザルの子育てに地域差はあるのだろうか?～	環境学部 講師 谷口 晴香
*	12月中旬	動画配信		
*	12/20(土)	東部	ヒットドラマ・映画から学ぶ消費者像 ～恋愛今昔物語～	経営学部 准教授 竹内 由佳
*	1月中旬	動画配信		

##### (2) リカレント教育関連講座

	開催日/会場		タイトル	講師
*	6/12(木)	東部	住まいのユニバーサルデザイン	環境学部 准教授 老田 智美

<AI・データ分析をビジネスにどう活かすか?>

AI・数理・データサイエンス教育研究センターが、コース形式で実施。

	開催日/会場		タイトル	講師
*	6/25(水)	本学	AI やデータ分析を業務改革に活かすデータドリブン経営	経営学部 教授/AI・数理・データサイエンス教育研究センター長 齊藤 哲
*	7月中旬	動画配信		
*	7/9(水)	本学	ビジネスで活用できる「生成AI」入門	人間形成教育センター 准教授 堀 磨伊也
*	7月下旬	動画配信		
*	7/23(水)	本学	データリテラシー	人間形成教育センター 准教授 久保 奨
*	8月下旬	動画配信		

(3) 小学生対象講座

開催日/会場		タイトル	講師
* 7/26(土)	むらなか キャンパス	チリメンモンスター～ 図鑑を作ろう!	環境学部 准教授 太田 太郎

(4) KANラジ

令和7年度は2回実施

開催日/会場		タイトル	講師
* 9/27(土)	本放送	第9回 農業と経済	経営学部 准教授 山口 和宏
* 10/4以降 毎週土曜日	再放送 (4回)		
12/6(土)	本放送	第10回 下水汚泥からエネルギーを創る メタン発酵処理 とは?	環境学部 准教授 戸苺 丈仁
12/13以降 毎週土曜日	再放送 (4回)		

2. 各種研究助成等

○科学研究費助成事業 (17件 23,790千円 ※間接経費含む)

研究種目	研究課題	研究代表者	R7年度助成額 (千円)
学術変革領域 研究 (A)	【新規】サンゴ骨格の14C年代測定の高精度化による南極周極深層水変動の解明	環境学部 准教授 徳田 悠希	1,820
基盤研究(B)	【継続】南極深海サンゴによる産業革命以降の周極深層水変動の復元	環境学部 准教授 徳田 悠希	2,080
	【継続】メタン発酵嫌気性微生物へのマイクロ波非熱的作用の機構解明と循環照射システム	環境学部 准教授 戸苺 丈仁	3,120
基盤研究(C)	【新規】AIの局所解釈性の活用による行動変容を用いた持続可能なエネルギーマネジメント	人間形成教育センター 准教授 堀 磨伊也	2,210
	【新規】衛星画像を用いた藻場分布域自動抽出技術に関する研究開発	環境学部 准教授 佐川 龍之	2,730
	【新規】社会性の種内変異から探る行為主体性の進化：野生ニホンザルの地域間比較を通して	環境学部 講師 谷口 晴香	1,820
	【新規】揺らぐ自由貿易下における大手製造業の投資戦略とグローバル・サプライチェーンの強化	経営学部 准教授 連 宜萍	1,690
若手研究	【新規】リカバリー経験がワーク・エンゲイジメントに与える影響	経営学部 准教授 中島 智子	1,040
基盤研究(C)	【継続】バリ島の外庭テラジャカンの保全と活用：持続可能な観光産業の発展に向けた総合的分析	環境学部 准教授 加藤 禎久	1,820

基盤研究(C)	【継続】 少子高齢化時代の農業ファミリービジネスと女性経営参画ー長期公的パネルデータ分析ー	経営学部 教授 西村 教子	1,300
	【継続】 有機農業における生産知識のナレッジマネジメント構造の解明に関する研究	環境学部 准教授 山口 創	650
	【継続】 ゴム分解キノコの物性低下因子の特定とそれを用いたゴムの再資源化	環境学部 准教授 佐藤 伸	1,300
	【継続】 アイデア開発者が自らの創造性発揮を動機づける過程と要件	経営学部 教授 磯野 誠	1,170
	【継続】 植民地期インドの貨幣鑄造所の実態：貨幣統合政策の実効性の検証	経営学部 准教授 谷口 謙次	520
若手研究	【継続】 ソーシャル・イノベーション普及の要因分析ー消費者コミュニケーションの現場からー	経営学部 准教授 竹内 由佳	520
	【期間延長】 寛容な社会性をもつニホンザルの離乳期の育児：子どもの中で子を育てる	環境学部 講師 谷口 晴香	0
	【期間延長】 労働力不足解消に向けた外国人介護職員の就業：「地域的文脈」が定着に与える影響	経営学部 准教授 佐藤 彩子	0
挑戦的研究 (萌芽)	【期間延長】 発達障害児等の環境刺激因子を除去したカムダウンルームデザイン手法の構築	環境学部 准教授 老田 智美	0

○その他の公募型研究助成 (3件 5,400千円)

研究課題	助成団体	研究代表者	受入額 (千円)
【継続】 農山村地域の持続可能性：管理作業量と生態系サービスの定量評価と未来シナリオ分析	(公財) 住友財団	環境学部 准教授 加藤 禎久	1,300
【継続】 嫌気性消化処理を活用した下水道処理場の大規模被災時エネルギー供給拠点化	公益信託下水道振興機構(受託者：みずほ信託銀行株式会社)	環境学部 准教授 戸苺 丈仁	1,100
【継続】 加硫ゴムの再資源化を可能にする木材腐朽菌 <i>Trichaptum</i> 種由来の分泌成分の特定と機能解明	(公財) 発酵研究所	環境学部 准教授 佐藤 伸	3,000

3. 受託研究 (6件 8,689千円 ※研究総額・間接経費含む)

研究課題	委託者	教員名	受入額 (千円)
【継続】天然ゴムを用いるグローバル炭素循環プロセスの科学技術イノベーション (研究題目3:天然ゴムの生分解)	国立研究開発法人 科学技術振興機 (JST-SATREPS)	環境学部 准教授 佐藤 伸	6,162
【新規】成分分析を活用した鳥取市食ブランド創出	鳥取市	環境学部 准教授 山本 敦史	803
【新規】消費者行動における社会への影響及び市民の意識調査等研究	鳥取市	経営学部 准教授 竹内 由佳	400
【新規】有機フッ素化合物 (PFAS) 環境調査における検出組成検証	(公財) 鳥取県保 健事業団	環境学部 准教授 山本 敦史	148
【新規】木造耐力壁の施工精度が耐震性能に与える影響	(一社) 鳥取県木 造住宅推進協議会	環境学部 准教授 中治 弘行	399
【新規】既存木造建物の耐震補強法に関する実大実験	(有) 池田住研	環境学部 准教授 中治 弘行	776

4. 共同研究 (12件 6,084千円 ※研究総額・間接経費含む)

研究課題	共同研究者	教員名	受入額 (千円)
【継続】質量分析オープンイノベーション協働ユニット	大阪大学大学院理学研究 科付属基盤理学プロジェ クトセンター	環境学部 准教授 山本 敦史	0
【継続】エリンギの機能性成分分析	(有)北村きのご園	環境学部 准教授 山本 敦史	165
【継続】ゴム分解キノコによる加硫ゴム分解・脱硫作用の解析	住友理工(株)	環境学部 准教授 佐藤 伸	1,000
【継続】衛星画像を用いた浅海域の海底地形推定技術の高度化に関する共同研究	海上保安庁海洋情 報部	環境学部 准教授 佐川 龍之	0
【継続】天然ゴムを用いるグローバル炭素循環プロセスの科学技術イノベーション	長岡技術科学大学	環境学部 准教授 佐藤 伸	0
【新規】ALOS-2/ALOS-4を用いた沿岸生物生息場のモニタリング技術に関する研究開発	JAXA	環境学部 准教授 佐川 龍之	0

【新規】製品検査内製化のための分析法開発	林純薬工業(株)	環境学部 准教授 山本 敦史	550
【新規】鳥取砂丘未来会議調査研究会における基礎的調査研究及び特別調査テーマに関する研究	鳥取砂丘未来会議	環境学部 准教授 重田 祥範	585
【新規】非都市地域における小気候調査に関する研究	東京電力ホールディングス(株)	環境学部 准教授 重田 祥範	484
【新規】リモートセンシングによる藻場マッピング手法の自動化に関する検討	公益財団法人環日本海環境協力センター	環境学部 准教授 佐川 龍之	1,100
【新規】混合バイオマスを対象としたメタン発酵の運転安定化に関する研究	三菱重工業(株)	環境学部 准教授 戸苅 丈仁	2,200
【新規】「衛星画像を用いた浅海域水深情報の把握」に関する調査研究	(一財)日本水路協会	環境学部 准教授 佐川 龍之	0

## 5. 地域連携・産学官連携

### (1) 地域連携活動推進助成制度

本学における学生の地域連携活動を推進するため、地域イベント等への参加、地域住民との交流、地域のスポーツ又は文化振興、地域情報の発信、地元産品の開発等の活動を行う団体等に対して資金的支援を行う。活動エリアは鳥取県及び兵庫県北部（麒麟のまち圏域）。

・助成額の上限額は、5万円/事業。同様の活動を継続して行う場合は上限額は20万円。

《令和7年度採択事業：採択件数9件（1月1日現在）》

申請団体	指導教職員	活動名称
学生コーディネーター ツアー部	環境学部 教授 荒田 鉄二	魅力発見！鳥取巡り
和太鼓部	環境学部 教授 根本 昌彦	和太鼓を用いた地域交流
ワカメボランティア25	環境学部 教授 根本 昌彦	ワカメフェス2025～集まれ世界の海藻たち～
防災サークル mu-TUES	総務課 主事 生島 湧気	防災ラボ
もけもけ	経営学部 准教授 高井 享	学生にもできる地域猫活動
里山生物園	学務課 主事 大生 唯統	小学生に身近な生き物の生態を伝えよう！
自然観察会メンバー	環境学部 教授 吉永 郁生	若葉台自然観察会
美歎の風	経営学部 准教授 倉持 裕彌	因幡の傘踊りを広めるプロジェクト
第3回はなたね文化祭実行委員会	環境学部 教授 千代西尾祐司	小中学生に向けた体験学習の提供

※令和6年度は9件の事業を採択。

## (2) 企業・自治体との連携

企業や自治体等からの連携事業の相談に対し地域連携コーディネーター及びSDGsコーディネーターを中心に学内調整を行い事業展開を図る。

《令和7年度の実績》

連携先	事業概要	活動地域
鳥取県及び鳥取市並びに県外企業	地域の自然資本産業の推進 ※検討会議へ参加中	気高町
鳥取市及び市内団体	授業（グリーンベンチャー）として実施 ※令和8年度も継続実施	佐治町

## サステナビリティ研究所

### 1. SDGs 共創プロジェクト（SDGs 連携事業）

本学、鳥取商工会議所（工業部会）、鳥取県の三者が連携し、学生が教員の指導のもと、SDGs 経営を行う県内企業の環境課題の解決に取り組む「共創プロジェクト」。

令和7年度は、以下の課題解決に取り組む。

事業者名	調査研究のテーマ	担当ゼミ	新規・継続の別
(株) 美染	カラー剤のアルミチューブ容器のリサイクル活動等の拡大	金ゼミ	新規
美保テクノス (株)	建設業における CO2 排出量算出モデルの構築	門木ゼミ	継続 (R6～)
大同端子製造 (株)	AI を活用した工場内の電力消費量の可視化	堀ゼミ	継続 (R6～)
菌興椎茸協同組合	生分解性素材による椎茸種菌の保護蓋の開発	金ゼミ	継続 (R3～)
		門木ゼミ	継続 (R3～)

### 2. SDGs 活動推進助成制度

実践的な SDGs 活動を行う学生の自律性を高めることを目的とする。SDGs 活動を通して持続可能な社会の実現を目指す意欲のある学生、大学院生（個人あるいは団体）を経済的に支援する。

- ・主に鳥取県内で行う活動で SDGs 達成に具体的に取り組む活動（ただし、審査員が認める場合に限り県外のエリアでの活動も可）。
- ・助成額 個人：上限3万円、団体：上限5万円。
- ・令和7年度は5件の事業を採択。

《令和7年度採択事業》

申請団体	指導教職員	活動名称
nm (ナノメートル)	環境学部 准教授 太田 太郎	～Final～ 女学生に健康的で安心な学生生活を
昆虫食を広め隊	環境学部 講師 谷口 晴香	新しい食の扉を開こう！
学生EMS委員会	SDGs コーディネーター 吉田 道生	TUES Sustainability Week2025 「未来へのルート」
TUES 地球環境を考える会びおとふ	環境学部 准教授 太田 太郎	ビオトープ観察会～水辺の生き物を見てみよう

とりかん市実行委員会	学務課 主事 大生 唯統	フリーマーケット「とりかん市」の開催～持続可能な社会、ここから～
------------	-----------------	----------------------------------

※令和6年度は2件の事業を採択。

### 3. SDGs カフェ

SDGs について気軽に語り合えるカフェ形式により、参加者が自由に意見交換する場。令和7年度は未実施。(令和6年度は、2回(テーマ)を実施。)

※学生が主体となって企画・運営を行うミーティングイベント。

### 4. サステナビリティ研究所研究成果報告会、シンポジウム

研究成果報告会では、SDGs の目標達成に向けて、令和6年度にサステナビリティ研究所が主体となり実施したプロジェクト型研究の成果を報告する。あわせて、環境省の脱炭素先行地域に係る関係者等を招聘し、パネルディスカッションを実施。

(1) テーマ：脱炭素社会の実現に向けて～課題共有から共創へ～

(2) 日時：令和7年12月3日(水) 13時～16時10分

(3) 会場：講義棟200講義室

(4) プログラム

#### ①第1部

##### 《研究発表》

「木質バイオマス発電に伴う燃焼灰(バイオチャー)の農業用途への再利用に関する研究」	環境学部 教授 金 相烈
「多様なセンサデータを用いた XAI によるエネルギーマネジメントとグリーンインフラの評価」	人間形成教育センター 准教授 堀 磨伊也
「農業者のバイオ炭の導入背景と農業経営への影響に関する研究」	環境学部 准教授 山口 創
「住民主体のまちづくり文化の醸成に関する研究：地域脱炭素の取り組みに関する合意形成を軸に」	環境学部 准教授 甲田 紫乃

#### ②第2部

##### 《話題提供・パネルディスカッション》

ファシリテーター：サステナビリティ研究所長 金 相烈

話題提供、パネラー：脱炭素まちづくりアドバイザー 白旗 佳三氏

株式会社鳥取メカシステム 代表取締役 林 正太郎氏

株式会社スマートエネルギーとっとり 課長 保木本 淳氏

### 5. TUES Sustainability Week

学生が主体となり企画・運営を行う、脱炭素を起点とした地域及び大学の持続可能性や環境について参加者と一緒になり考える週間イベントとして、令和7年度は、「生物多様性」、「脱炭素」、「鳥取の未来」についてのトークイベントをはじめ、パネル展示等を実施。

また、令和7年度においては、7月12日(土)に、「未来ノオト」として、地域の小・中学生をはじめ、一般の方にも参加いただける「防災」、「食とエネルギー」等に関連したイベントを実施した。

(1) 未来へのルート

・日時：令和7年7月7日(月)から7月11日(金)

・プログラム：Sustainability Talks、パネル展示等

(2) 未来ノオト

・日時：令和7年7月12日(土)

・プログラム：魔法のかまどごはん体験、防災関係機関による屋内・外展示、昆虫食体験等

## 6. 若葉台小学校との連携によるSDGs教育

### (1) 気候変動に係る学習

鳥取市並びに㈱スマートエネルギーとつとりが協力し、脱炭素先行地域の指定地域内の“市立若葉台小学校”の3年生から6年生を対象に“脱炭素”、“気候変動”等に係る探究学習の授業を実施。

・日時：令和7年7月14日（月）

・内容：「みんなで地球をまもろう！」・・・堀ゼミ生

「鳥取市の脱炭素先行地域の取組み」・・・鳥取市スマートエネルギーカン推進室 ほか

### (2) 自然環境の保全に係る学習

TUES 地球環境を考える会びおとぶが、市立若葉台小学校の4年生を対象に、自然環境や生物多様性の保全の意義等について、ビオトープを活用した学習会を3回開催。

① 9月19日：自然環境保全等の意義や外来生物の悪影響等について、スライドにより学習

② 9月26日：大学内のビオトープ、水辺の生き物の観察

③ 10月29日：若葉台小学校敷地内にビオトープ3基を新設

## 7. フィンランド（トゥルク市）との学生相互派遣事業

フィンランドとの学生相互派遣事業（※）に本学も事業参加し、9月22日から9月29日までの間、学生2名と教職員2名を派遣した。参加した学生は、12月20日（土）に本学で開催する鳥取県版COP会議「COP TOTTORI 2025」で報告会を実施。

また、12月上旬に、フィンランド（トゥルク市）の自治体職員及び学生が来日し、県内における脱炭素に関連する施設や取組みを行っている企業等の視察の他、脱炭素に向けた方策等について、学生らと意見交換やフィールドワークを実施した。

### (1) 期間

派遣：9月22日（月）～9月29日（月）（8日間）

受入：12月1日（月）～12月3日（水）

### (2) 活動概要

- ・派遣先における脱炭素に向けた先進的な各種施設の視察
- ・脱炭素社会実現に向けた取組状況について、トゥルク市職員や学生らとの交流、意見交換
- ・県及び本学が指定する報告会等での発表、情報発信 等

### (3) 参加者

派遣：学生2名、教職員計2名

受入：フィンランド（トゥルク市）学生、トゥルク市職員、トゥルク大学教職員

### (4) 事業全体スケジュール

学生相互派遣事業全体スケジュール

- ・(R7.8月～9月) 派遣前の事前勉強会
- ・(R7.9.22～9.29) フィンランド訪問
- ・(R7.12.1～12.3) フィンランド派遣団来鳥

(本学での学生交流や地域でのフィールドワークを実施)

### 【参考】

#### (※) フィンランドとの学生相互派遣事業

県内学生が国内外の先進自治体の若者との意見交換等を通じて地域で地球温暖化対策や脱炭素等に関する見識を深めながら、県の課題への提案や様々な啓発活動、情報発信を行い脱炭素社会や持続可能な社会の実現に向けた気運の醸成を図ることを目的とした、フィンランド共和国トゥルク市との学生相互派遣事業。

## 8. 鳥取県版 COP 会議「COP TOTTORI 2025」の開催

鳥取県との共催で、鳥取県版 COP 会議「COP TOTTORI 2025」を本学において開催。

脱炭素に関する講演や意見交換、実践活動の発表等を行う。

また、県民参加型のフォーラム等を実施し、本学の学生（学生 EMS 委員会等）もパネルディスカッションや分科会ブースに参加。

(1) 日時：令和7年12月20日（土） 10:00～16:00

(2) 会場：本部講義棟、学生センター等

(3) 実施内容

①基調講演

②パネルディスカッション

③脱炭素チャレンジカップ in 鳥取、同表彰式

④テーマ別分科会「日常の選択が未来をつくる～衣・食・住から始める脱炭素アクション」

⑤その他

・企業ブースの設置、パネル展示

・ワークショップ

・コンテスト等の実施、表彰・展示

### 【参考】

(※) 鳥取県版 COP 会議「COP TOTTORI 2025」

鳥取県の温室効果ガス削減目標（2013年度比CO2削減▲60%（2023年時点▲約32%）の達成に向けて、県民の環境に対する機運をより一層高めることを目的に、2050年脱炭素社会の中心的存在となる若者や、県民、企業をはじめ多様な主体と連携した気候変動問題に関するフォーラムほか、テーマ別の分科会等を開催し、県民一人ひとりが、この世界的な課題について考える場を創出し、県民の温室効果ガス削減に向けたライフスタイルの転換や企業の脱炭素経営を促進することを目的に実施する事業。

## 9. 鳥取県産業未来フェア及び鳥取県若者×産学交流 FES

鳥取県が開催した「鳥取県産業未来フェア」へ学生と一緒に参加し、海洋プラゴミの仕分け体験やSDGs 共創プロジェクトの説明を実施。また、「鳥取県若者×産学交流 FES」へも参加し、大学生のゼミ活動の紹介や学生生活について紹介。

(1) 鳥取県産業未来フェア

・日時：令和7年11月3日（月祝）、4日（火）

・会場：米子コンベンションセンター

(2) 鳥取県若者×産学交流 FES

・日時：令和7年12月27日（土）

・会場：鳥取県立鳥取産業体育館

## 10 展示会への出展

次の展示会に出展し、学生、大学の取組を来場者へPRした。学生がブース対応を行い、大学での学びが社会と直接つながることを実感できるいい機会となった。

(1) しまなみパック 2025

①期日 令和7年10月22日（水）、23日（木）

②場所 福山ビッグローズ（広島県福山市）

③内容 県外企業と連携して開発した環境配慮型パッケージ（ハロパック）を展示

(2) エコプロ 2025

①期日 令和7年12月10日（水）～17日（金）

②場所 東京ビッグサイト（東京都江東区有明）

③内容 学生や大学の取組（脱炭素、資源循環、生物多様性など）をポスター展示

1.1 脱炭素チャレンジカップ in 鳥取（鳥取県主催）で学生 EMS 委員会が優秀賞を受賞

学生 EMS 委員会が、脱炭素チャレンジカップの学生部門で優秀賞を受賞し、12月20日に開催された鳥取県版 COP 会議で表彰された。この表彰制度は脱炭素に寄与する優れた取組の表彰を目的としており、同委員会が2023年度から継続して実施している TUES Sustainability Week の企画運営が高く評価された。

1.2. とっとり SDGs パートナー交流会 in 公立鳥取環境大学への参加

鳥取県が実施している「とっとり SDGs パートナー交流会」を本学で開催。

SDGs に取り組む企業や団体が参加される交流会の中で、本学の学生が実践発表を行ったうえで、テーマごとにグループに分かれて交流や意見交換を実施予定。

- ・日時：令和8年1月14日（水）
- ・会場：学生センター2階多目的ホール

地域イノベーション研究センター

1. 地域連携型教育（副専攻「地域実践」）特別演習 A・B・C

科目	担当教員	訪問先企業・団体	内容
特別演習 A	柚洞 一央 准教授	中央大学、埼玉県等	中央大学連携共同フィールドワーク
	吉田 聡 教授	SC 鳥取	ガイナレとの体験学習
特別演習 B	倉持 裕彌 准教授	鳥取市内 NPO 団体各所	NPO・ボランティア体験
	高井 亨 准教授	鳥取県ほか中国地方鉄道会社	中国山地を通るローカル鉄道の現状調査
	山口 和宏 准教授	北海道地域農業研究所ほか	農業経営・都市農村交流
	佐藤 彩子 准教授	米子市内介護施設等	介護問題と支援サービス
特別演習 C	張 漢賢 教授	鳥取市内バス会社	バス停留所悉皆調査
	吉永 郁生 教授	鳥取県林業試験場等	山地災害リスクと森林管理
	根本 昌彦 教授	智頭町森林組合、森林セラピー等	林業と地域資源利用
	甲田 紫乃 准教授	兵庫県立淡路島公園フィールドワークほか	企業による持続可能な社会に向けた取り組み調査
特別演習 C	佐藤 伸 准教授 吉永 郁生 教授	鳥取市内、きのこセンター	キノコ・菌類研究とシイタケ栽培の現状
	山口 創 准教授	和歌山県紀の川市農協ほか	果樹産地におけるアグリビジネス、環境保全型農業の展開～紀の川市における現地演習と鳥取県農業の比較～

## 2. TUES地域連携フォーラム

地域住民及び「とっとり麒麟地域活性化プラットフォーム構成員」等と学生が地域の抱える課題を認識し、その解決に向けて意見交換等を行うフォーラムを実施予定。

- (1) 日時：令和8年1月22日（木）
- (2) 会場：学生センター多目的ホール
- (3) 内容

- ・学生の地域連携活動紹介（ポスターセッション）
- ・意見交換会 テーマ：「学生と地域の連携を継続させるにはどうすればよいか」

## 3. 麒麟特別研究費助成

地域実践（麒麟）副専攻履修生の学術的かつ地域のニーズに応じた卒論研究を支援し、学生による地域研究の活性化を図ることを目的した助成制度を設けている。

※令和7年度は2名採択

学部	学年	研究課題名	指導教員
環境学部 環境学科	4年	麒麟地域における伝統知・地域知に基づく防災・減災の可能性	加藤 禎久 准教授
環境学部 環境学科	4年	持続可能なまちづくりを生み出す地域や組織についての考察～農福連携・循環型コミュニティ・食を通して～	甲田 紫乃 准教授

## 4. 地域イノベーション研究センター研究所研究成果報告会

研究成果報告会では、令和6年度に地域イノベーション研究センターが主体となり実施したプロジェクト型研究の成果を報告する。研究に関連する基調講演やパネルディスカッションを以下のとおり実施。

- (1) テーマ：「とっとりブランド」～フードシステムの現状とこれから～
- (2) 日 時：令和8年1月8日（木）13時20分～17時00分
- (3) 会 場：本部講義棟11講義室
- (4) プログラム

### ①第1部

#### 《研究発表》

内 容	発表者
「鳥取県内生産者と共創する食材価値とその発信」	環境学部 准教授 山本 敦史
「有機質肥料を連用した水田土壌における土壌溶液を介した水稻の土壌窒素吸収過程」	環境学部 准教授 角野 貴信
「鳥取県の6次産業化企業を核とする地域活性化の可能性」	経営学部 准教授 山口 和宏

### ②第2部

#### 《話題提供》

内 容	講 師
「選ばれる農産物の生産・流通の推進に向けて」	鹿児島大学農学部 教授 豊 智之 氏
「『大山ブロッコリー』消費地から選ばれる産地として価格訴求からこだわり訴求への取組」	鳥取西部農業協同組合営農部 次長 野口 和弘 氏
「大山ブロッコリーのブランディングにおける生産現場での取り組み」	株式会社 andAgri 代表取締役 林原 正之 氏

「現場から見たとっとりブランド」成果仲卸が語る フードシステムの今と未来	タカサカ青果株式会社営業部 課長 近藤 亮 氏
---	----------------------------

《パネルディスカッション》

・テーマ：「消費者ニーズと生産体制の現状とこれから」

### まちなかキャンパス

#### 1. まちなかキャンパス概要

- (1) 場 所：鳥取市末広温泉町160 日交本通りビル3階301号室
- (2) 開館時間：午前9時～午後9時（年末年始、夏期一斉休業日除く）※令和7年8月1日～
- (3) 利用目的：教育・研究・社会貢献活動のほか、会議、打合せ等、多目的に利用可。

#### 2. 令和6年度の利用実績

##### (1) 利用者区分別内訳

区分	人数(人)
本学在学生	457
本学卒業生	2
本学教員	71
本学職員	56
他大学学生	8
他大学教職員	0
行政関係者	19
幼・小・中・高生	327
一般	11
マスコミ関係	8
組合・協議会等	9
企業	2
他学校教職員	8
計	978

##### (2) 利用目的別内訳

目的	人数(人)
授業	116
会議・打合せ	42
学生活動	0
自習	86
研究	0
まちなか英語村	59
環大スタディ	372
里山生物園	84
見学	25
取材	23
イベント等	8
その他待合せ等	163
計	978

### 岩美むらなかキャンパス

#### 1. 岩美むらなかキャンパス概要

- (1) 場 所：岩美郡岩美町大谷
- (2) 利用目的：自然環境保全実習・地域文化調査、岩美町の町並み調査、地域活動拠点（ボランティア等）、地元小中高校生・地域住民との研究会・交流会 等々
- (3) 収容人数：セミナー等（最大30人程度）、宿泊（最大20人程度）
- (4) 施設概要：研究室、教材のメンテナンス及び保管室、トイレ・シャワー、食堂などの生活設備、作業場及び駐車場 等
- (5) 面 積：本邸部分 235.13 m<sup>2</sup>（1階 164.98 + 2階 70.15）  
 食堂等部分（新築） 52.07 m<sup>2</sup>、蔵 46.24 m<sup>2</sup>（1階 23.12 + 2階 23.12）  
 作業場（倉庫） 85.25 m<sup>2</sup>、駐車場 17台収容

2. 令和6年度の利用実績

(1) 利用者区分別内訳

区分	人数(人)
教職員	102
学生	391
学外者	169
計	662

(2) 利用目的別内訳

目的	回数(回)	人数(人)	うち宿泊(回)
公開講座・講演会他	3	115	0
授業・ゼミ活動・サークル	42	429	16
地域住民利用	0	0	0
その他	44	118	0
計	89	662	16

国際交流センター

1. 令和7年度の国際交流実施計画・実績

【海外大学との学生交流・文化交流】

区分	国	交流大学	交流内容	時期	実績
派遣	韓国	清州大学	交換留学	前期	希望者なし
				後期	希望者なし
			短期学生文化交流	先方都合により今年度は中止	-
	ロシア	ウラジオストク国立経済サービス大学	短期研修	今年度の実施なし	-
	アメリカ	セントラルクリスチャンカレッジ・カンザス	短期研修	8/20-9/24	2名
受入	韓国	清州大学	交換留学	前期	2名
				後期	希望者なし
			短期学生文化交流	先方都合により今年度は中止	-
	アメリカ	セントラルクリスチャンカレッジ・カンザス	短期研修	5/31-6/11	1名

【海外語学研修】

区分	国	留学先	内容	時期	実績
派遣	ドイツ	カッセル大学	語学研修(英語)	8/21-9/17	8名
	アメリカ	ポートランド大学		8~9月	中止 (先方都合)
	オーストラリア	サザンクロス大学		2/20-3/28	4名
	カナダ	トリニティ・ウェスタン大学		2/11-3/15	12名
	マレーシア	アジアパシフィック大学		2/22-3/22	2名
	韓国	延世大学韓国語学堂	語学研修(韓国語)	8/28-9/19	1名

	中国	吉林大学	語学研修 (中国語)	8月	-
--	----	------	---------------	----	---

【その他の交流（他機関主催）】

区分	国	交流相手・事業名等	交流内容	時期	実績
派遣	中国	中国吉林省県費留学生事業（県）	留学生の相互受入	2月	-
受入	中国	中国吉林省県費留学生事業（県）	留学生の相互受入	通年	1名
	ロシア	ウラジオストク国立経済サービス大学（観光専攻）	学生交流	今年度の実施予定なし	-
	中国	令和7年河北省青少年事業	学生交流	9月	10名

【その他の交流（多文化共生推進）】

区分	交流相手・事業名等	交流内容	時期	実績
交流	湯梨浜町・グラウンド・ゴルフ国際交流大会	スポーツ交流 (地域住民・学生)	11月	-
	鳥取市ペタンク協会・ 鳥取市ポワ・ティペタンク交流大会	スポーツ交流 (地域住民・学生)	5月	※5月 雨天中止
			11月	※11月 雨天中止
	異文化学習交流会	多文化共生理解 につながる活 動、交流	7月	55名
			12月	25名
	外国人防災勉強会	留学生向けの防 災勉強会	10月	15名

2. 出張英語村・まちなか英語村

(1) 出張英語村

今年度は対象を高校生とし、対面で実施する（希望校にはオンラインで実施）。鳥取県全地域の高等学校に出張英語村の案内をし、希望があった高校（最大10校）に対して実施する（令和7年度の申込は7校）。

(2) まちなか英語村

今年度は中学生から高校生を対象とし、まちなかキャンパスにおいて対面で実施する。

3. 外国人留学生へのサポート

(1) 留学生サポーター登録制度

日本人学生と留学生がパートナーとなり、語学の相互学習、趣味や興味の共有、文化交流を通じて、留学生の日本語学習や学校生活をサポートする。

- ・留学生サポーター登録者45名

## Ⅱ 広報関係 (R7.12末現在)

### 入試広報関係

- 1 進学相談会 参加27件(県内8件)、  
資料参加41件

[R6:参加53件(県内15件)、資料請求47件]

→本学に関心を持った高校生を対象に  
大学の教育内容や入試制度について  
個別に相談対応し、大学案内等の  
資料を配布する。

月	参加計①+②	①現地	②オンライン	資料参加
4	2	2	—	12
5	2	2	—	5
6	10	9	1	15
7	2	1	1	5
8	0	0	0	2
9	5	3	2	0
10	1	1	0	0
11	5	3	2	1
12	0	0	0	1
計	27	21	6	41

- 2 高校内ガイダンス 100件(うち県内17件)

[R6:参加132件(うち県内22件)]

→高校からの依頼を受け、希望する生徒に  
大学の教育内容や入試制度について  
説明し、高校生の質問に対応する。

月	参加計①+②	①現地	②オンライン
4	8	4	4
5	22	9	13
6	12	7	5
7	18	3	15
8	1	1	0
9	3	0	3
10	10	2	8
11	7	4	3
12	19	2	17
計	100	32	68

- 3 大学紹介チラシ等の作成・配布

→県内の全高校1年生に高校生向けデジタルチラシを  
配布。(現2、3年生はR6に配布済み)

→保護者向け大学紹介リーフレット

「大学生活まるわかりBOOK」(県内版)を新たに作成し、県内全高校生・保護者に高校を通じて配布。

- 4 学長による県内高校訪問(新任校長及び県校長協会会長への訪問)

→県内10校へ4～5月に訪問し、高校生の進路動向等について意見交換。 [R6:県内全高校32校]

月	訪問数	訪問校
4	3	倉吉東、倉吉農業、倉吉総合産業
5	7	米子西、米子北、米子北斗、米子、日野、鳥取湖陵、岩美

- 5 出前授業等(県教委との高大連携事業含む) 39件(うち県内30件)[R6:31件(うち県内28件)]

→大学教員が高校に出向くなどして専門的な内容をわかりやすく高校生等に教授する。

月	校数	県内	県外
4	—		
6	3	青翔開智中、倉吉西、八頭	
7	9	八頭、智頭農林、鳥取工、鳥取商、岩美北小、米子西、米子南、倉吉東	津山東
8	1		玉野光南
9	4	鳥取城北、農業大学校、岩美	佐用
10	4	鳥取工業、鳥取湖陵、岩美	静岡城北
11	1	鳥取東	
12	1		総社南
計	23	18	5

※ 上記の他、高大連携事業で県内高校に16回出前講義を実施。

6 来学者対応 26件（うち県内14件）〔R6：24件（うち県内13件）〕

→来学者（高校生、保護者、高校教員等）に教育内容や入試制度の説明及び相談対応、大学施設案内を実施する。

月	件数	県内	県外
4	2		岐阜農林、近大付属広島
5	3	鳥取盲	徳島県立科学技術、横浜国立桜丘
6	1	桜ヶ丘中学	
7	6	米子、境、湯梨浜学園中学	林野、明石北、帯広 (Web)
8	7	鳥取中央育英PTA、八頭児童クラブ、第一学院	津山東、伊予、三田松聖、履正社
9	2	鳥取湖陵	小松島
10	2	鳥取中央育英、米子北	
11	0		
12	3	倉吉農業、智頭農林、まなびや緑側（日野町）	
計	26	14	12

7 高校教員説明会（鳥取大学連携事業）

→県内外の高校教員を対象に大学の教育内容や入試制度等について説明する。

〔R6：県内34校51名、県外186校193名、オンデマンド83校93名〕

実施時期（対面）： 6月6日～7月5日

県内： 本学（6月9日、12校28名参加）

倉吉（6月17日）及び米子（6月19日）で実施（18校29名参加）。

県外： 28会場で実施。159校176名参加。

オンデマンド： 104校110名が申込み。（視聴期間 7月2日～8月31日）

8 オープンキャンパス

→高校生や保護者が直接大学教員の模擬授業を受講するなど、キャンパスの雰囲気に触れて、大学の教育内容、学修環境等を理解してもらい出願に繋げる。来場型の他、オンライン型、ミニオープンキャンパスを実施する。

行事名	令和7年度	令和6年度
8/2 来場型オープンキャンパス	636	466
8/3 来場型オープンキャンパス	487	395
8/4 オンラインオープンキャンパス	57	62
9/4 来場型ミニオープンキャンパス	60	60
9/16-19 オンライン進学相談	9	5
計	1,249	988

9 母校訪問

→長期休暇中の帰省時に学生が出身高校を訪問し、大学での学びや生活の様子を高校教員や後輩に伝えることで、本学に対する理解を深めてもらう。

実施時期	R7	R6	R5
夏期（8月上旬～9月末）	15	18	13
春期（2月上旬～3月末）	—	6	4
計	15	24	17

10 その他県内高校対象の取り組み

・高等学校進路指導研究協議会（進路指導の部） 6月27日（金）

→県内高校の進路指導担当教員向けに大学の教育内容や入試制度等を説明する。

- ・大学進学研修プログラム  
(鳥取大学との連携事業)  
→ 県内の高校生で総合型選抜や学校推薦型選抜での大学進学を考えている生徒を対象に大学進学研修プログラムを実施する。

会 場	令和7年度	令和6年度
7/30 鳥取大学米子会場	64	70
8/4 本学	80	76
8/7 鳥取大学鳥取会場	54	55
計	198	201

- ・県内高等学校長との意見交換会 9月10日(水)  
→ 大学の教育内容や入試制度の説明のほか高校との連携等について意見交換する。

[R6]

実施日	行 事 名	備 考
6/28	高等学校進路指導研究協議会	進路指導の部
8月、3月	大学進学研修プログラム	鳥取大学との連携事業
9/7	P T A対象説明会	鳥取城北2年生
9/10	鳥取県校長協会との意見交換会	32校参加
11/10	鳥取県高等学校P T A研究大会	学長がパネリスト
12/24	鳥取県教委との意見交換会	

## 大学広報関係

### 1 マスコミへの資料提供

→本学の情報をマスコミ各社にニュースリリースを行う。

<情報提供件数>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	1	4	5	6	2	4	3	6	6				37
R6	1	4	6	4	3	5	4	7	3	4	5	6	52

11/27 公立鳥取環境大学におけるフィンランドの学生との交流会のご案内

12/5 「第22回環大コンペ」を開催します

12/12 公立鳥取環境大学 学部生・院生のための特別講演会「地球環境研究の最前線」を開催します

### 2 ホームページでの情報発信

<お知らせ> →本学がこれから行うイベント情報等を発信する。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	2	2	6	13	9	6	4	8	11				61
R6	4	1	6	11	9	4	12	6	4	3	6	8	74

12/11 特別講演会「地球環境研究の最前線」を開催します

12/18 12/21放送「アサスマ！」(サンテレビジョン)に本学が登場します

12/25 令和7年度地域イノベーション研究センターシンポジウムを開催します

<TUESレポート> →本学学生の活動や研究、イベント情報等のレポートを発信する。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	3	5	11	19	5	10	7	11	13				84
R6	6	4	6	9	8	10	8	10	17	4	9	7	98

10/6 環境学部 外園さんが第33回地球環境シンポジウムで最優秀ポスター賞を受賞しました

10/29 本学学生が「鳥取市地方創成ストリートミーティング」に参加しました

11/5 「ぶらいべいと博物館」に新たな作品展示

12/16 経営学部 今岡さんが公認会計士試験に合格しました

- 12/17 第22回 環大コンペの結果について
- 12/19 本学が「エコプロ2025」に出展しました
- 12/23 学友会と大学との意見交換会を行いました
- 12/23 「スチューデント・ピアサポーターと話そう〜ランチ交流会〜」実施しました！

#### TUESレポート掲載の一例

令和7年10月21日（火）から本学の“学生魅力づくり委員会”が取り組んでいる「ぷらいべいと博物館」（情報メディアセンター内）において、新たな作品の展示が始まりました。

この度の作品は、“地域との連携による作品展”となっており、本学の所在地である若葉台地域の方にご協力をいただきました。

作品は、全て手作りで製作されており、昔懐かしの“竹とんぼ”や“銅板画等の加工作品”、“風神・雷神の刺繍”、“手縫いの人形”等、素人とは思えない出来栄の作品がズラリと並んでいます。

一般の方の入場可能な施設内で展示を行っておりますので、お気軽にお越しください。

学生魅力づくり委員会では、学生や地域の方と連携しながら、素敵な展示を開催していく予定です。



ぷらいべいと博物館に新たな作品展示



公認会計士試験合格



第22回環大コンペ



3 SNSを活用した情報発信

<X> →公立鳥取環境大学（入試広報課）が運用する大学の公式アカウントで、本学からのお知らせや身近な話題をほぼ毎日、情報発信する。（1/8現在 フォロワー数1,485人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	32	27	36	40	24	30	35	27	33				284
R6	25	21	23	29	35	26	31	30	36	22	26	26	330

公立鳥取環境大学 (TUES) @kankyo\_u 2025年12月26日  
 雪です！冠雪です！  
 白くなったキャンパスでは、すでに4体以上の雪だるまが確認されておりま  
 す（きつと増殖中）❄️

こういう日の県外出身学生さんの“大いなる喜び”と、県内or積雪地域出身学  
 生さんの“こなれ感”。

そのギャップも、本学の冬の風物詩です！❄️

鳥取の冬を楽しんでください！



公立鳥取環境大学 (TUES) @kankyo\_u 2025年12月27日

まさか床まで緑とは！  
 ともなく、本学イメージカラーの緑たっぷりでお迎えしましたよ🍀🍀

VR・AR体験やゼミ活動紹介など、さまざまな形で公立鳥取環境大学のこ  
 とをよりよく知っていただけましたら光栄です。

ご来場ありがとうございました！



とっとり若者×産学交流FES 出展

<LINE> →コミュニケーションアプリ「LINE」を利用して、本学公式アカウントをフォローしたユーザーに対して、月1～2回程度メッセージ等を発信する。（1/8現在 友だち数3,373名）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R7	1	1	3	3	2	3	2	1	4				20
R6	2	0	3	2	2	2	3	1	2	4	3	1	25

公立鳥取環境大学

●本学で「第64回 日本生気象学会 全国大会」を開催！

📅 11/8(土)・11/9(日)  
 ●公立鳥取環境大学 学生センター  
 副大会長：公立鳥取環境大学 環境学部 准教授 重田 祥範

突然ですが、「生気象学 (Biometeorology)」をご存知ですか？  
 気象や気候が、人・動物・植物などの“生きもの”に与える影響を研究する学問で、医療・健康・環境など、幅広い分野に関わる注目のテーマです🍀

今回、その学会が初めて鳥取市で開催されます🍀

公立鳥取環境大学

●本学で「第64回 日本生気象学会 全国大会」を開催！

📅 11/8(土)・11/9(日)  
 ●公立鳥取環境大学 学生センター  
 副大会長：公立鳥取環境大学 環境学部 准教授 重田 祥範

突然ですが、「生気象学 (Biometeorology)」をご存知ですか？  
 気象や気候が、人・動物・植物などの“生きもの”に与える影響を研究する学問で、医療・健康・環境など、幅広い分野に関わる注目のテーマです🍀

今回、その学会が初めて鳥取市で開催されます🍀

公立鳥取環境大学

●テレビ番組情報

12月7日(日) 9:30-10:00  
 「アサスマ」に本学が登場します。  
 放送局：サンテレビ

本学の特色や魅力をキッシュと凝縮して紹介いただきます🍀

📺放送地域外の方も毎日公開の動画配信で視聴いただけます。

ぜひご覧ください！

📄番組HP (制作会社HP)  
<https://www.mishaxx.com/okasuma/>

4 新聞掲載 82件[R6年度:167件]主な掲載記事は以下の通り

- 11/17 日本海新聞 環境問題学べるエコ容器 環境大生と包装資材卸会社デザインを共同開発
- 11/29 読売新聞 とっとり人間録 若者目線で「政策」提案 公立鳥取環境大3年 檜山琴音さん
- 12/7 日本海新聞 20日、環境大で脱炭素について学ぶイベント
- 12/16 日本海新聞 脱炭素社会の実現 研究成果を報告 鳥取環境大サステナビリティ研究所シンポ 他

<日本海新聞環境キャンペーン2025> 学生たちのグリーンムーブメント～若き担い手たち

- 6/28 日本海新聞 命を無駄にせず山林保全 「狩猟部」
- 8/30 日本海新聞 環境に優しい除草 「ヤギ部」
- 9/30 日本海新聞 板ワカメ文化継承と活性化 「ワカメ部」 本学学生のインタビュー掲載
- 10/30 日本海新聞 学びながら行動 「TUES地球環境を考える会」
- 12/29 日本海新聞 地域巻き込み環境を考える 「学生EMS委員会」

### Ⅲ 学務関係

#### 1 入学式

- (1) 実施日 4月3日(木) 午後1時～
- (2) 場所 とりぎん文化会館梨花ホール
- (3) 入学者 計336名(環境学部163名、経営学部165名、大学院8名)

#### 2 フレッシュヤーズセミナー(新入生を対象)、ガイダンス

- (1) 実施日 4月4日(金)、5日(土)、7日(月)
- (2) 主な実施内容
  - ・1年生 履修指導
  - ・1,4年生 健康診断
  - ・全学年 学部ガイダンス、進路・資格ガイダンス、環境管理活動・地域連携活動

#### 3 授業

- ・4月8日(火) 授業開始

#### 4 副専攻制度

R6年度修了者 計19名(環境学1名、経営学7名、AI・数理・データサイエンス4名、英語実践0名、地域実践(麒麟)7名)

#### 5 学修サポート体制の充実

今年度はサポーター11名に委嘱し、学修支援、学生生活へのアドバイスを実施。

#### 6 就職関連

##### (1) 県内就職促進

##### 「とっとり就職相談員」(新規)

学生のキャリア支援及び県内就職促進のため、県内就職に関する環境や実情を熟知した「とっとり就職相談員」を配置した。本学キャリア支援室において、学生の相談業務をはじめ、学生が県内企業に目を向けるきっかけづくりや企業対応等を含む各種業務を実施し、県内企業を対象とした就職活動の支援を強化した。

##### 「TUESインターンシップフェア」(新規)

本学学生が県内企業のブースを訪れ、各企業担当者から企業概要、業務内容、インターンシッププログラムの説明等を受ける「TUESインターンシップフェア」を6月6日(金)本学体育館にて実施し、企業29社、学生1～3年生645人が参加した。学生は企業担当者との対話を通じて、県内企業への理解を深めるとともに、インターンシップ参加意欲を高めた。



活気あふれるインターンシップフェアの様子



熱心に説明を聞く学生

「とっとりインターンシップ（鳥取県インターンシップ推進協議会）参加状況」

TUESインターンシップフェア（先述）に加え、夏期休業直前にはとっとりインターンシップ未エントリー者のための登録会（15名参加）を実施するなど県内インターンシップへの参加を促進し、令和6年度の約2倍の増加に繋がった。

	令和7年度	令和6年度
エントリー数	62件	32件
参加者数	41人	23人

「公立鳥取環境大学学内合同企業研究セミナー」

2027年春に卒業する学生（現学部3年生、院1年生）の12月13日（土）に学内合同企業研究セミナーを開催した。このセミナーは、IT、金融業や製造業など県内外から30社を本学にお招きし、学生が希望する企業ブースを訪れ、企業担当者から企業概要、業務内容等の説明を受ける形式で行った。119人の学生が参加し、就職活動が解禁される3月1日に向け就職活動の意欲を高めた。

（2）就職ガイダンス

実施	タイトル	学年	対象	内 容	R7	R6	R5
4/5	進路ガイダンス	1	全員	TUESキャリアナビ登録	323	273	315
4/4	進路ガイダンス	2	全員	大学生活と就職活動を知る、自己理解を促進する	166	86	116
4/4	進路ガイダンス	3・院1	全員	就活スケジュールを確認する、就職サイト登録会	89	80	81
4/7	進路ガイダンス	4	全員	選考のポイントと採用スケジュールを確認する	20	15	15
4/16	自己分析と自己PR	3・院1	全員	自己分析のワークから自己PRを考える	100	53	104
4/23	公務員業務説明会	全学年	希望者	県、市、県警の採用担当者が業務説明、質疑応答	71	74	106
5/7	インターンシップ基礎	3・院1	全員	ISの基礎知識、実際に1社以上エントリーしてみる	91	87	169
5/21	インターンシップ応用	3・院1	全員	ワークを通じて実践的にインターンシップを体験してみる	83	85	110
6/4	SPI模擬受検会	3・院1	全員	客観的に自己を知るSPI性格検査 エントリーシート作成前に強み弱みを言語化する	73	72	83
6/18	志望動機	3・院1	全員	実際の企業の志望動機を書いてみる	43	36	64
7/2	インターンシップ直前講座	3・院1	全員	IS申込、目標設定	51	—	—
7/16	前半まとめ講座	3・院1	全員	振り返り、就職活動計画	14	—	—
9/30	進路ガイダンス	3・院1	全員	選考のポイント、採用スケジュール	37	60	37
9/30	進路ガイダンス	2	全員	インターンシップ準備	81	161	65
9/30	進路ガイダンス	1	全員	大学生活の過ごし方	266	251	195
10/15	履歴書/エントリーシート	3・院1	全員	履歴書/エントリーを完成させる	19	55	19
11/5	適性診断テスト	3	全員	職種への適性を知る	13	30	29
11/19	プレ合同企業研究セミナー	3・院1	全員	合説に参加する企業の紹介、合説のまわり方	22	14	29
12/13	学内合同企業研究セミナー	3・院1	全員	鳥取県内外の優良企業30社の紹介フェア	119	140	121
1/7	面接対策	3・院1	全員	面接での重要ポイント		—	13
1/14	自己RPとガクチカ	3・院1	全員	就活準備総まとめ講座		40	33

(3) 面談関係

実施	タイトル	学年	対象	内 容	R7	R6	R5
6-9月	前期 個人面談	3 院1	全員	職務適性テスト結果を返却し、適性と希望進路の確認	220	253	151
10-12月	後期 個人面談		全員	企業のエントリー、合同企業説明会の参加方法を確認	164	143	86

(4) 公務員試験対策講座・資格取得講座（募集中であり人数は未確定）

実施	タイトル	学年	対象	内 容	R7	R6	R5
通年	公務員試験対策講座	全員	希望者	行政職(教養+専門)コース、行政職(教養+SPI)コース、技術系(教養+専門)コース、警察官コース、消防官コース	21	32	42
通年	簿記講座	全員	希望者	簿記1～3級	2	10	17
通年	FP講座	全員	希望者	FP技能検定2～3級	1	2	6
通年	SPI対策講座	全員	希望者	R4年度新規事業	1	1	0

(5) 就職活動状況（2026年3月卒業・修了）

2026/1/15 現在

	全 学			環境学部			経営学部		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
① 卒業見込者	187	127	314	90	68	158	97	59	156
② 就職希望者	167	113	280	74	57	131	93	56	149
③ 内定者数	130	98	228	59	49	108	71	49	120
④ うち県内企業内定者数	24	26	50	11	11	22	13	15	28
⑤ 就職(内定)率 ③/②	77.8%	86.7%	81.4%	79.7%	86.0%	82.4%	76.3%	87.5%	80.5%
⑥ 内定者に占める県内企業内定率 ④/③	18.5%	26.5%	21.9%	18.6%	22.4%	20.4%	18.3%	30.6%	23.3%

